

あまづつみ  
◎雨堤 史晃

やまだ整形外科クリニックリハビリテーション科（兵庫県）

【目的】破局化は痛みの強さや痛みによる障害、精神的苦痛に参与し、予後の予測因子になるとされている。近年、疼痛に対する破局的思考の評価バッテリーであるPain Catastrophizing Scale（以下、PCS）を用いた報告も増加しているが、ロコモモ度との関連を報告したものは少ない。本研究はPCSの結果とロコモモ度の関連について検証することを目的とした。

【対象と方法】対象は中枢神経疾患と認知症がない65歳以上の高齢者40例（平均年齢 $78.9 \pm 5.7$ 歳）とし、PCSを用いて疼痛に対する破局的思考を評価した。ロコモモ度の判定は立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモモ25を用い、各項目で1つでも当てはまればロコモモ度1あるいはロコモモ度2と判定した。PCS（下位尺度である反芻、無力感、拡大視を含む）とロコモモ度判定テストの結果を分析し、相関関係を検証した。統計処理はピアソンの相関係数とスピアマンの順位相関係数を用いた。

【結果】立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモモ25とPCSの結果の間に相関関係は認められなかった。一方、ロコモモ度とPCSの総合得点( $r=0.68$ ,  $p<0.01$ )、ロコモモ度と反芻( $r=0.76$ ,  $p<0.01$ )、ロコモモ度と無力感( $r=0.64$ ,  $p<0.01$ )、ロコモモ度と拡大視( $r=0.68$ ,  $p<0.01$ )の間にそれぞれ有意な正の相関を認めた。

【考察】PCSの結果とロコモモ度判定方法の各テストとの間に相関が認められなかったことについては、各テスト結果に影響する身体・精神機能がそれぞれ違うため、テストの際には痛い部位を使わずに済んだケースが含まれることが要因と考えられ、3つのテストから複合的に対象者の機能面を評価する重要性が示唆された。一方でPCSの結果とロコモモ度は関連が深いことが分かり、寝たきり予防には破局的思考のケアも重要になると考えられる。

【結論】破局的思考はロコモモ度とも関わりが深く、ロコモティブシンドロームを予防して健康寿命を延長するためには疼痛に対する精神的なケアも重要となる。